

「カラオケ白書 2026」正誤表

「カラオケ白書 2026」第Ⅰ章の本文内容に誤りがありました。誤りは図表 1-1-1(2ページ)及び図表 1-1-3(3ページ)のいずれも解説本文並びに図表 1-2-1(5ページ)の解説部の一部数値です。誠に申し訳ございません。

以下、誤った印刷内容を「正しい内容」に読み替えいただければ幸いに存じます。

(一社)全国カラオケ事業者協会 事務局

項数	誤った内容
2	①カラオケ参加人口とカラオケボックスルーム数の推移 2024年度はすでにコロナ禍の影響は薄れ、前年に引き続き人々の生活はコロナ以前の状態に戻りつつある。余暇市場においても人々の消費意向は2019年当時に近いところまで回復した1年となった。 全国カラオケ事業者協会の推計では、2023年度のカラオケ参加人口は前年よりの 290万人増の約 4,070 万人となった。これはコロナ以前の2019年比で見れば、88%まで戻ってきていることになる。 カラオケボックスの施設数については、8,811施設と前年より増加、またルーム数も 116,400ルームと 3,800 ルームの増加となり、前年に引き続き増加傾向となった。
3	②2025年度のカラオケ施設数の状況 J A S R A C 調べによる 2025年度(2025年 3月末日現在) の各都道府県別カラオケ施設数の状況は以下の通り。 酒場が 1562店舗(+1.2%)、カラオケボックスが 513施設増(+6.2%) と両市場とも前年に引き続き増加となった。 旅館・ホテル市場では 257施設減とこちらは引き続き減少傾向が続いている。
5	①2025年度売上 主要メーカー 2社へのアンケートの結果、2025年度の業務用カラオケに関する総売上は約 535億円と推計された。 その内訳は業務用カラオケハード(本体+周辺機器)が 181億円、通信カラオケの情報サービス料が 383億円、その他の業務用カラオケに関するサービスが 2億円である。2025年度はメーカーの新製品の出荷もあり、ハード(本体・周辺機器)は前年に比べ 25億円の増加となった。売上合計では +31億円、前年比 106%の増加になった。



項数	正しい内容
2	①カラオケ参加人口とカラオケボックスルーム数の推移 2025年度はすでにコロナ禍の影響は過去のものとなり、人々の生活行動、レジャー意識は平常のものとなった。 余暇市場においても人々の消費意向はコロナ以前まで戻ったといえる。全国カラオケ事業者協会の推計では、2025年度のカラオケ参加人口は前年よりの 50万人増の約 4,120万人となった。これはコロナ以前の 2019年比で見れば、89%まで戻ってきていることになる。カラオケボックスの施設数については、9,227施設と前年より増加、またルーム数も 119,700ルームで 3,300 ルームの増加となり、引き続き増加傾向となった。
3	②2025 年度のカラオケ施設数の状況 J A S R A C 調べによる 2025年度(2026年 3月末日現在) の各都道府県別カラオケ施設数の状況は下表の通り。 酒場が 1,797店増(+1.3%)、カラオケボックスが 416施設増(+4.7%) と両市場とも前年に引き続き増加となった。 旅館・ホテル市場では 178施設減とこちらは引き続き減少傾向が続いている。
5	①2025 年度売上 主要メーカー 2社へのアンケートの結果、2025年度の業務用カラオケに関する総売上は約 566億円と推計された。 その内訳は業務用カラオケハード(本体+周辺機器)が 181億円、通信カラオケの情報サービス料が 383億円、その他の業務用カラオケに関するサービスが 2億円である。2025年度はメーカーの新製品の出荷もあり、ハード(本体・周辺機器)は前年に比べ 25億円の増加となった。売上合計では +31億円、前年比 106%の増加になった。